「N-Sikle」(日食協 商品情報連携標準化システム) 2025年度 情報システム研修会

2025年10月24日(金)



私ども卸とメーカー様にとって、小売業に対する見積書提出などの商談に付随する業務は、 手作業によるExcel ファイル作成・メール送信など非効率な作業が多く、デジタル化の推進に よる業務効率化が課題となっています。

これらのテーマについて、日本加工食品卸協会では個々の企業がそれぞれに業務改善を進める一方で、業界全体の取組みとして標準化推進を進めて行くことが必要であるとの認識に立ち、「N-Sikle」を商品情報連携業務の標準化システムとしてスタートしました。

※「N-Sikle」(日食協 商品情報連携標準化システム) とは Nisshokukyo Sales Information Key Link Enhance network

「卸・メーカー間で見積情報・商品マスタ情報の授受をデジタル化し、フォーマットの共通化や自動変換・出力を行うことで提出先小売業ごとの個別対応、担当者ごとの重複作業を削減し、サプライチェーン間の全体最適を目指す仕組み」を云います。



伊藤忠食品は、国分グループ本社は、国分首都圏は

トモシアHD(旭食品、カナカン、丸大堀内)

(株)日本アクセス、三井物産流通グループ(株)、三菱食品(株)

1.活動状況報告 N-Sikle 現在までの取り組み

(1)首都圏にてPOC説明会

POC参加卸・メーカー概要説明会

2023年12月12日~14日 134社171名参加

POC参加卸売企業

第一弾

第二弾

卸営業担当者向け/メーカー担当者向け操作説明会 2024年1月~2月

担当者IDの登録・利用準備 各卸・対象帳合メーカー毎に説明会を実施

(2)POC開始 2024年3月~2024年11月(2段階に分けてPOC実施)

上記POC期間は、N-Sikleの全ての機能を利用いただき、費用は無償とする POC期間にて月毎に利用状況の確認会を実施する。

POCにて小売業に何か対応頂く事はありません。

(3)本番開始

2024年11月国分首都圏にて本番開始 2025年09月カナカン富山支社にて本番開始予定

本番利用卸・メーカーの確定。

本番参加卸・メーカーは、N-Sikle利用機能を確定。(利用料の確定)

卸・メーカーにおける本番IDの登録を行う。小売業に何か対応頂く事はありません。

(4)日食協N-Sikle運営委員会設立 2025年4月

食品卸業界及びメーカー・小売を含めた食品流通における商品情報連携業務の標準化を目指し、運営面での 課題解決と機能面での品質向上を目的として、日食協にて「N-Sikle運営委員会」を設立 【委員】

卸売業及び関連企業から構成し、卸売業は2024年度実施したPOC参加企業を中心に

・旭食品、伊藤忠食品、加藤産業、カナカン、亀井通産、国分グループ本社、コゲツ産業、トモシアHD、 日本アクセス、日本酒類販売、丸大堀内、三井物産流通グループ、三菱食品、ヤマエ久野

14社を当初の委員企業とする

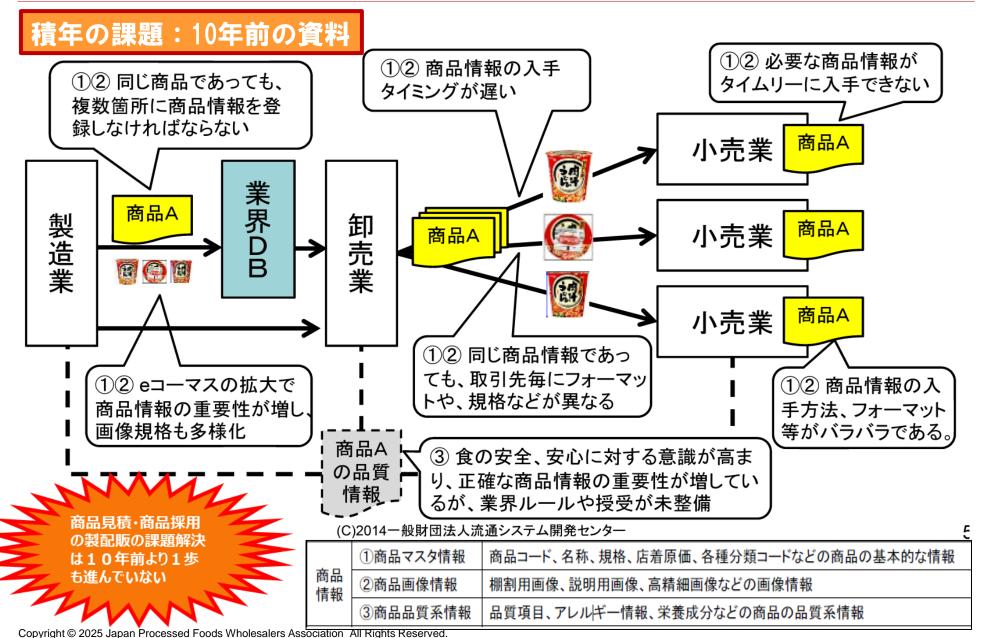
【将来的な小売業との連携について】

商品提案・採用確定後の商品マスタ連携に関して、将来的にはメール・EXCELで提供ではなくデータでの提供を想定。 今回の見積共通フォーマットを利用することにより、「業界標準の流通BMSで小売へのマスター送信」「従来通り EXCEL提出」「個別フォーマットでのマスター送信」など様々なご要望に応える事が低工数で可能となる。 日本スーパーマーケット協会、オール日本スーパーマーケット協会等の小売業団体と連携しながら産業横断レジストリー 、N-Sikleとの連携方法を商品情報連携の効率化に向けて検討していく。

2



2. 商品情報連携でのメーカー・卸・小売業課題



商品情報の重要性と積年の課題について 10年後の今も同じ課題

- 消費財サプライチェーンに携わる製・配・販の事業者は、現状、取り扱う商品の情報について、登録・管理に当たり各社専 用フォームに個別入力する等、「手作業によるバケッリレー」に依存している。
- 加えて、商品を特定するJANコード(GTIN)も、商慣習によりルールが徹底されておらず、必ずしも一意に対応しないた め、個別処理が必要となっている。
- ⇒人手不足が深刻化する中、個別最適による非効率・不正確な商品情報授受の在り方を 業界横断で協調して改めることで、生産性向上につなげる必要がある。
- 消費財サプライチェーンにおける商品データ授受の実態

製(メーカー)

四季の商品改廃にあわ せ、あと300件、商品の 案内作成・情報登録し なければ…。取引先毎に、 単位や全角・半角の違 い等、細かな仕様に沿わ せるのが大変だ。

配(卸売)

早く小売のオフィスに行っ て、専用PCから商品情 報を入力せねば・・・。し かし、メーカーから情報が まだ来ないから電話しよう か。新規の顧客開拓にも 行きたいのに。

販(小売)

メーカーや卸に入力して もらった情報が、手入力 だから間違いが多い。ダブ ルチェックの人手が足りな い…。消費者に誤った情 報を伝える訳にいかない し困った。



×卸売数





情報の人力バケツリレー

■ JANコードの一意性の問題

アイス 12個入り



アイス 期間限定 15個入り

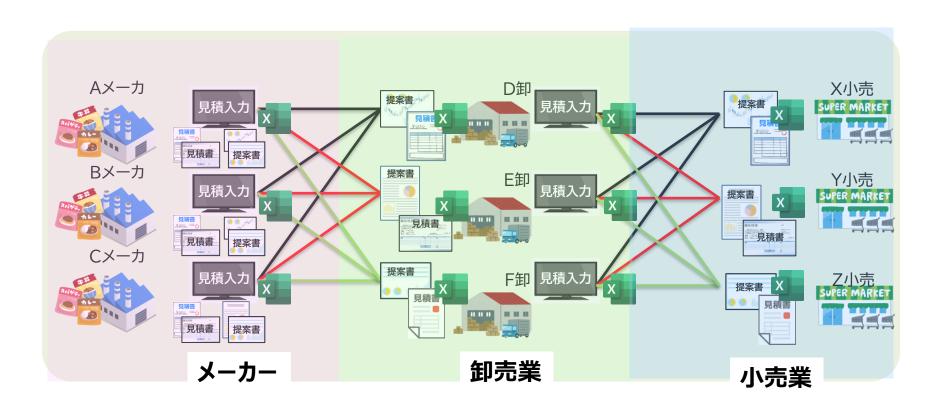
外観や容量が異なるがJANコードは1つのみ

- ✓ 我が国は諸外国より、期間限定の新商品や特売が非常に多く、 JANコードを変えない運用・古いコードを使いまわす等の実態がある。
- ✓ 重量や画像等が重要な、物流・ECの業務のため、各社独自の内 部コード用意をはじめ、多くの個別対応が必要となる。

(画像等出所) GS1Japan 概説流通SCM

3. 商談業務・商品情報連携の現状

現状では メーカー・卸は<u>小売毎の専用フォーマットで見積書や商品情報を提案</u>してきました。 その為、<u>同じ情報を異なるフォーマットで作成するという重複作業が発生</u>しています。



4. 経産省商品情報連携会議 -検討体制-

1-1. 本検討WGの位置付け

「商品情報の取扱に関する検討WG」と「商品情報の在り方・商慣習に関する検討WG」はそれぞれ独立して検討を進めるが、 次年度以降の体制に関する議論での協調は必要となる。

商品情報連携会議 A)

基本的ルールのとりまとめ

商品情報プラットフォームの運用ルール(ガイドライン)策定のほか、商品情報の登録者・利用者・サービス提供者の役割について整理

2026年度以降の枠組み検討

- 持続的な運営を確保するための枠組を設計・提案(組織、運営規約等の在り方を議論)
- 商品情報プラットフォーム構想参加者の拡大策及び業界全体での利用拡大策を検討

事務局

(経産省及びシグマクシス)

商品情報の取扱に関する検討WG B)

ルール検討

項目検討

登録ルールの策定

商品情報プラットフォームを円滑に運用するために必要となる商品の登録タイミングや業務運用の細則を策定する。

利用ルールの策定

商品情報プラットフォームにおいて商品 情報を取得・利用する際及び誤情報 のフィードバックを行う際のルールを策定 する。

・ 拡張項目に関する検討

2024年度に合意した基本項目(49 項目)に加え、商品情報ブラットフォーム上で共通化すべき基本的な項目に ついて検討を行うと共に、画像情報* や品質情報など、共有ニーズの高い拡張項目に関する詳細を議論。

*商品画像については、拡張子や著作権・利用許諾 権等の扱いを含め検討。

情報品質の管理

登録・利用ルールを実現するに当たって必要となるシステム要件を整理・検討し、 データ品質を確保するための指針と評価基準を策定する。

商品情報の在り方・商慣習に関する検討WG

C)

GTIN運用ルールの改訂

GTIN運用方法を検討する枠組みから検討を行い、実際の事例を 基に運用ルールを定義する。

商慣習の是正

業界内での不適切な商慣習を是正し、公正な取引環境を確立するための指針を作成する。

産業横断レジストリー利用料金の詳細等は、各レジストリーサービス事業者が主体となり検討されることを想定。

出展:経産省商品情報連携会議資料より

4. 経産省商品情報連携会議・全体スケジュールー

1-1. 事業全体スケジュール

第1回商品情報連携会議で提示のあったように、「商品情報の取扱に関する検討WG」では、10月に第2回検討会を開催し、 上期議論の取りまとめを行い、11月に予定される商品情報連携会議で報告を行う。

	2025年度												2026年度
	10			20			3Q			40			1Q
	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4月
産業横断レジストリー	要件 定義	開発・テスト等											Ver. 1. 0 リリース
A) 商品情報連携会議 (経済産業省主催)		第1回 (5/30)						第2回			第3回		
B) 商品情報の取扱 に関する検討WG (経済産業省主催)				第1回	 }科会等で議	論	第2回	分科会等	等で議論	第3回			
C) 商品情報の在り方・ 商慣習に関する検討 WG (経済産業省主催)				第1回	 }科会等で議	論	第2回	分科会等	等で議論	第3回			

出展:経産省商品情報連携会議資料より

一般社团法人 日本加工食品卸協会

4. 経産省商品情報連携会議 - 運営の流れ-

2-2. 運営の流れ

各分科会では、事務局が提示するガイドライン素案、論点について議論を進めることを想定。分科会参加メンバーの皆様には、会議の場における意見表明だけでなく、社内調査や事務局資料のレビュー等の実施もお願いしたいと考えております。

事前準備 分科会実施 最終アウトプット 事務局 分科会メンバー インプット/調査 ✓ 合意形成 ✓ ファシリテーション ✓ 事務局資料レビュー 製配販 ✓ インプット/論点提示 ガイドライン素案 ✓ ラップアップ ✓ 持ち帰り事項共有 事業者要望 分科会実施 業界DB 事業者要望 事務局 事務局 アジェンダ整理 ✓ 分科会総括 分科会 分科会 分科会資料作成 ✓ ガイドライン仮案見直し ルール検討 準備 振り返り ✓ 産業横断レジストリー事業者 事前内容共有 関係者トアリング との調整 論点一覧 分科会メンバー 分科会メンバー ✓ 社内意見聴取 持ち帰り事前共有 ガイドライン仮案 ✓ 持ち帰り事項対応 次回分科会検討内容 の確認 トアリング参加

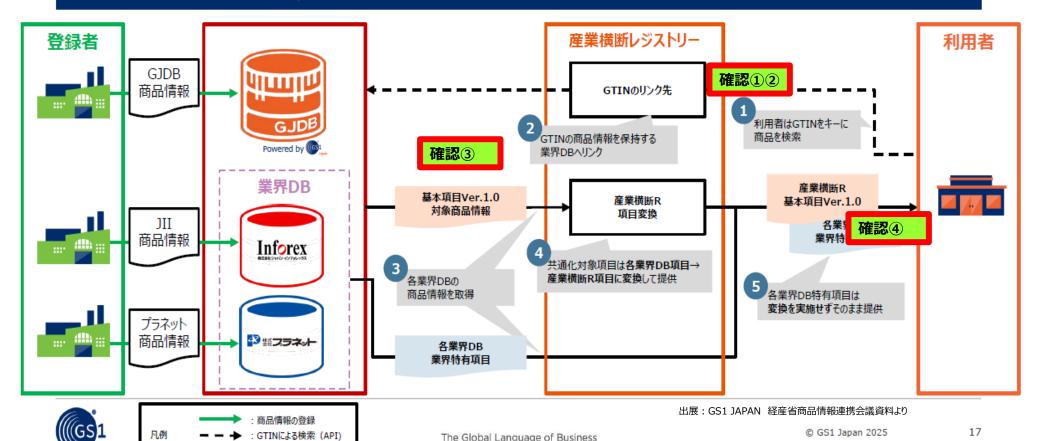
出展:経産省商品情報連携会議資料より



5. 産業横断レジストリー構想(経産省)

- ①GTINでの検索となっているが、新商品に関してメーカーを跨ったGTINを小売はどのように取得するのか?
- ②カテゴリーや販売開始時期など小売 (バイヤー) の利用を想定した検索方法にしないと小売は使わないのではないか。
- ③GTINが分かる既存商品の場合、昨今変更の多い価格改定時に利用する事を想定するが基本情報のみなので対応できない。
- ④産業横断レジストリーでは検索画面を用意しないとの事で、小売(バイヤー)が検索する為に各小売が画面を作成する必要あり。

産業横断レジストリーの商品情報基本項目(56項目)は統一のフォーマットに変換し利用者に提供。 各業界DBの業界特有項目は変換を実施せず、そのまま各業界DBのフォーマットで利用者に提供。



商品情報の提供 (API)

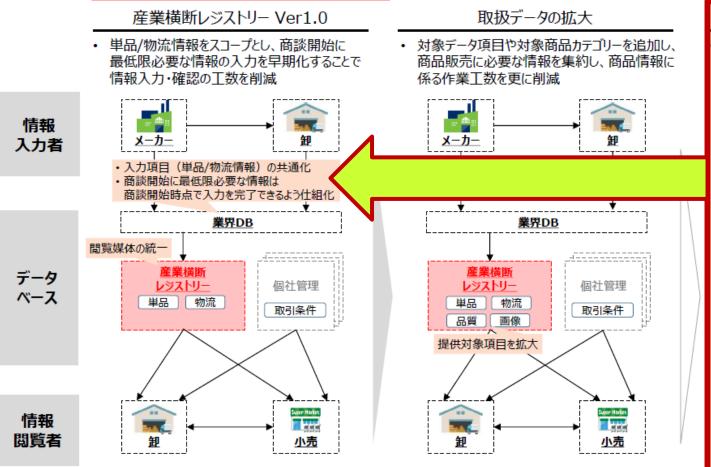
·般社团法人 日本加工食品卸協会

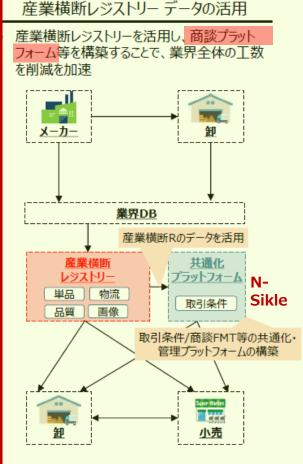
5. 産業横断レジストリー構想(経産省)

2-1-2. 産業横断レジストリー構想拡張の考え方

産業横断レジストリーは協調領域情報を取扱対象とし、段階的に提供する対象項目を拡大する。 将来的な取引情報の共通化・プラットフォーム構想など、更なる業務効率化の土台を整備する。

第一ステップでは卸・メーカー 小売の負担は変わらない。 このフェーズを早めなければ製 配販における商品情報連携の 効率化はない





出展:GS1 JAPAN 経産省商品情報連携会議資料より

Copyright SIGMAXYZ Inc. all rights reserved. / Confidential

一般社团法人 日本加工食品卸協会

6. 商品情報連携メーカー・卸・小売業工数削減への対応

2-2-1. 製・配・販事業者メリット:業務効率化関連工数試算

品質・画像情報への取り扱い項目拡大・<mark>商談支援システムとの連携</mark>を考慮した場合、 本構想を通じて、約82.1万人月の関連工数に対する業務効率化が見込める。

産業横断レジストリー及びN-Sikleで効率化可能な範囲

凡例 赤枠:産業横断R構想で効率化

青枠:N-Sikleで効率化

緑枠:製配販での自社システムとの連携実装

更に効率化を図るために、制配販各層でのデータ連携・自社

システムへの取込を推進する。(次ページ)

効率化 関連工数 概算

新規概算

第1回検討会 提示 商談商品

約30.2万人月

約14.3万人月

基本情報伝達

取引消音致1左连

商品情報連携

約18.6万人月

約12.1万人月

受発注·物流管理

約8.1万人月

約26.1万人月

販売準備

約3.7万人月 対象外

上記左2工程の多くの部分は卸が担当。経産省の取り組みとN-Sikleを連動させ、上記工数の削

減を図らなければ人手不足による影響で対応出

対象業務例



■ 商塾

基本情報伝達/ 取得・確認

取引情報伝達/ 取得·確認

- 基本情報確認(業界DB)
- 基本情報登録(代行)

画像/品質情報伝達

■ 取引情報登録(代行)

■ 受発注

✓ コード読み替え

来なくなる可能性がある

1商品 1 JANになった場合

■ 画像/品質情報登録 (代行)

■商影

基本情報取得· 確認 取引情報取得·

- 基本情報登録
- 取引情報登録

棚割登録

- ✓ 商品サイズ情報 取得・確認
- ✓ 商品画像(棚割) 取得

- ■像/品質情報登録
- 店舗販促準備
 - ✓ 画像制作
- EC掲載準備
 - ✓ 画像制作
 - ✓ EC掲載用情報入力



卸

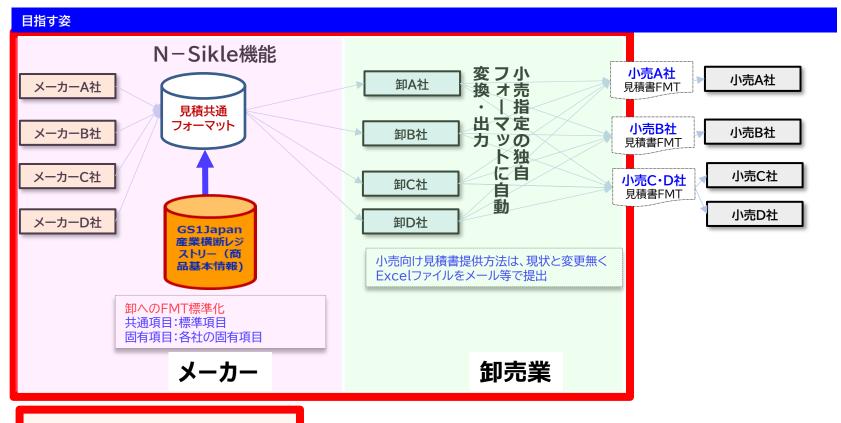
Copyright SIGMAXYZ Inc. all rights reserved. / Confidential

7. N-Sikle現行機能と産業横断レジストリーとの連携

<u>製配販を通じた見積情報・商品マスタ情報授受においてデジタル化を推進すること、フォーマットの共通化や自動変換・出力を行うことで、</u>

- ・提出先小売毎の個別対応
- ・担当者毎の重複作業
- が削減され、全体最適化を目指します。

将来的には、小売への見積書FMTはデータ連携を想定しているが、当初は小売独自フォーマットへの変換・出力までをN-Sikleで行う。



N-Sikle:卸・メーカー版機能範囲

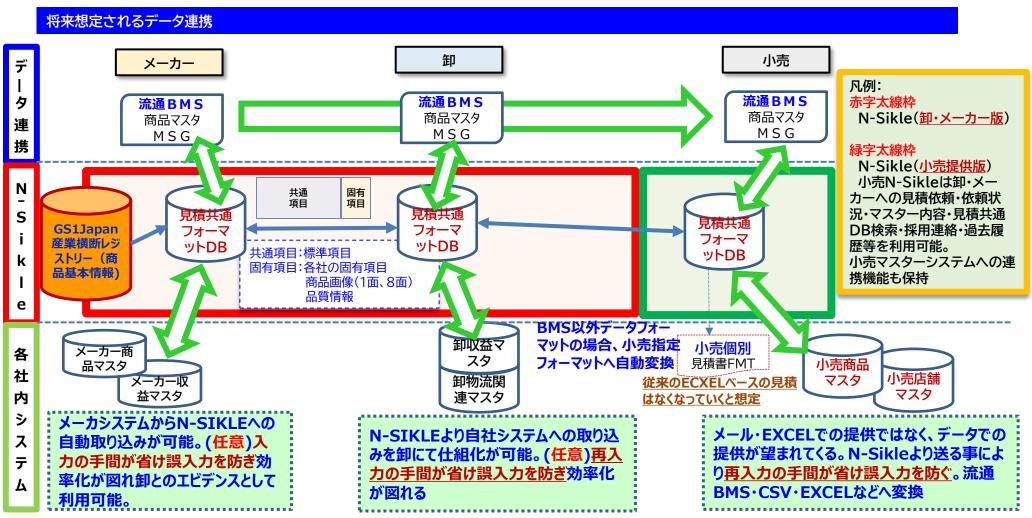


8. N-Sikle サプライチェーン連携将来の方向性

N-Sikle:卸・メーカー版

N-Sikle:小売提供版

N-Sikleの将来の方向性 ~商品情報 製配販での共通プラットフォーム利用(セキュリティは担保)~



8. N-Sikle サプライチェーンデータ連携構想について



製配販での「N-Sikle」と「産業横断レジストリ」連携イメージ案(N-Sikle小売利用パターン)

- ・「産業横断レジストリ」は各業界DBの商品情報管理を行い、「N-Sikle」と連携し、正確な商品情報の供給を行う。
- ・「産業横断レジストリ」の商品情報は商品確定情報を連携する商品マスタ機能だけでなく、既存商品に関する価格改定時の見積機能でも利用する。
- ・利用ユーザーは見積機能/商品マスタ機能ともに「N-Siklelのブラウザ機能を使用してサービス利用する。 ・小売業もN-Sikleを利用し見積依頼・採用連絡をN-Sikleにて行う。見積・商品情報はN-Sikleから取得する。 小売業の見積機能利用はオプション。利用必須ではない メーカー 小売業 制売業 EXCELでの 見積依頼 見積依頼の受領 見積依頼の受領 見積依頼 確認など 見積作成 見積作成 見積提出 見積提出 見積確認・差戻 見積確認・差戻 見積修正 見積修正 **GJDB** x∄ 見積承認 (受領) 見積承認 (受領) Inforex (食品DB) 商品マスタ依頼の受領 商品マスタ依頼 商品マスタ依頼の受領 商品マスタ依頼 PLANET 商品マスタ作成 商品マスタ作成 (日雑DB) 商品マスタ提出 商品マスタ提出 取込 商品マスタ確認・差戻 商品マスタ確認・差戻 商品マスタ修正 商品マスタ修正 商品マスタ承認(受領) 商品マスタ承認(受領) 商品情報 各業界DBへの基本商品マスタ登録 標準FMTでの提供 産業横断レジストリ 産業横断レジストリ ※小売側の指定FMTの場合は N-Sikleを小売が利用するパターン 別途開発費用が発生 小売から卸・メーカーへの見積依頼や 採用連絡・依頼状況・連携状況が確認可能 経済産業省様 GS 1 JAPAN様 各業界DB

各業界DB事業者様

PLANET

(日雑DB)

管理

Inforex

(食品DB)

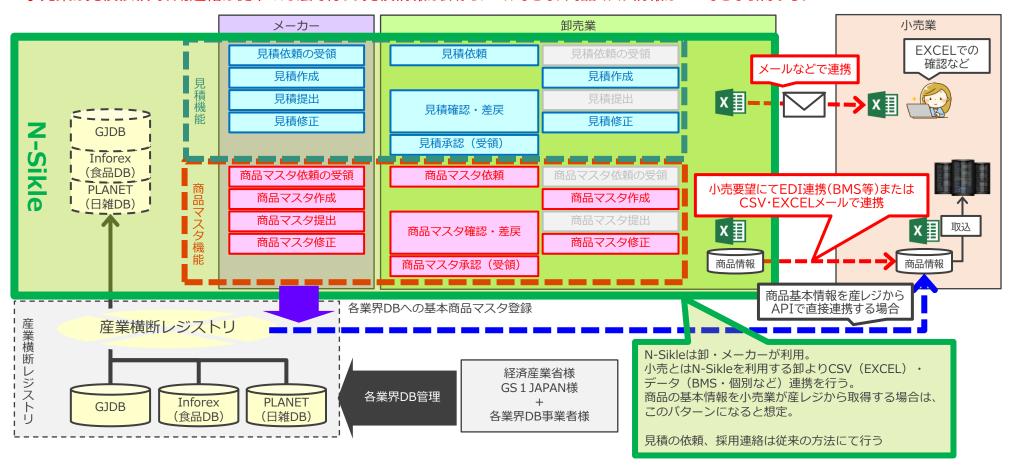
G1DB

8. N-Sikle サプライチェーンデータ連携構想について



見積連携「メールなど」/商品マスタ連携「個別EDIなど」利用の場合(N-Sikle利用せず連携するパターン)

- ・「産業横断レジストリ」は各業界DBの商品情報管理を行い、「N-Sikle」と連携し、正確な商品情報の供給を行う。
- ・「産業横断レジストリ」の商品情報は商品確定情報を連携する商品マスタ機能だけでなく、既存商品に関する価格改定時の見積機能でも利用する。
- ・卸メーカーは見積機能/商品マスタ機能ともに「N-Sikle]のブラウザ機能を使用してサービス利用する。
- ・小売業は見積依頼・採用連絡は従来の方法で行う。見積情報は卸からメールなどで、商品マスタ情報はEDIなどで取得する。



9. N-Sikle今後の進め方について

業界横断の業務効率化のため

メーカー・卸間の見積書フォーマット・機能を 業界標準として統一したい

利用システムについて

既に提供されているサービスを活用することが最適と考えるため、 サイバーリンクス社の商談支援システムを利用する。

コスト負担の考え方

N-Sikleは、利用者業種別の機能(卸向け機能・メーカー向け機能)を用意。 利用者には一人ずつサービス利用IDを発行し、受益者負担の考えと、利用範囲によって 利用者の負担とならない料金体系を検討。



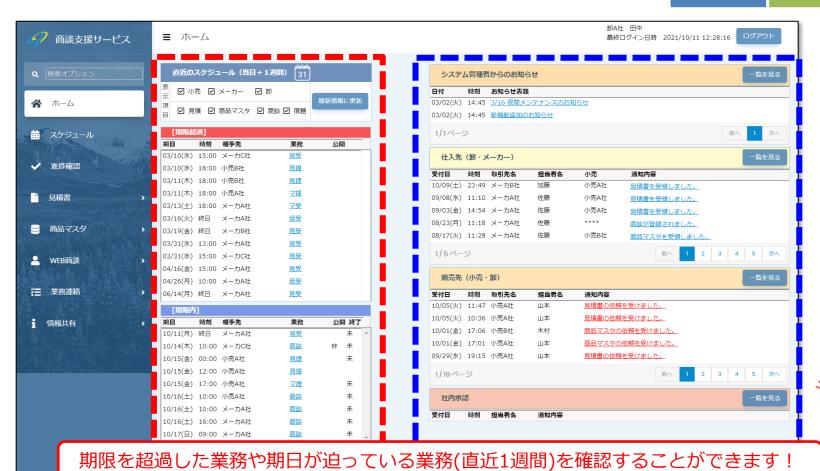
小売業との連携について

日本スーパーマーケット協会、オール日本スーパーマーケット協会等の小売業団体と連携し、産業横断レジストリー、N-Sikleの連携機能を導入し、製配販の商品情報連携効率化を図る業界共通プラットフォームを構築する

Appendix: N-Sikle画面イメージ (ホーム画面)

利用者

メーカ-機能 卸売業 機能 小売業 機能

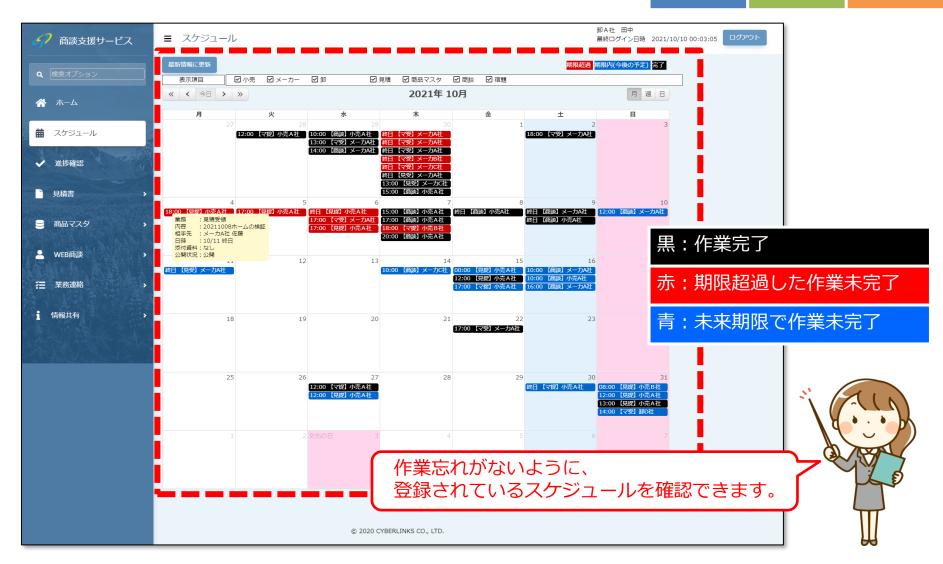


© ZUZU CYBERLINKS CO., LID.

仕入先・販売先・社内承認の新着情報を確認することができます!

利用者

メーカー 機能 卸売業 機能

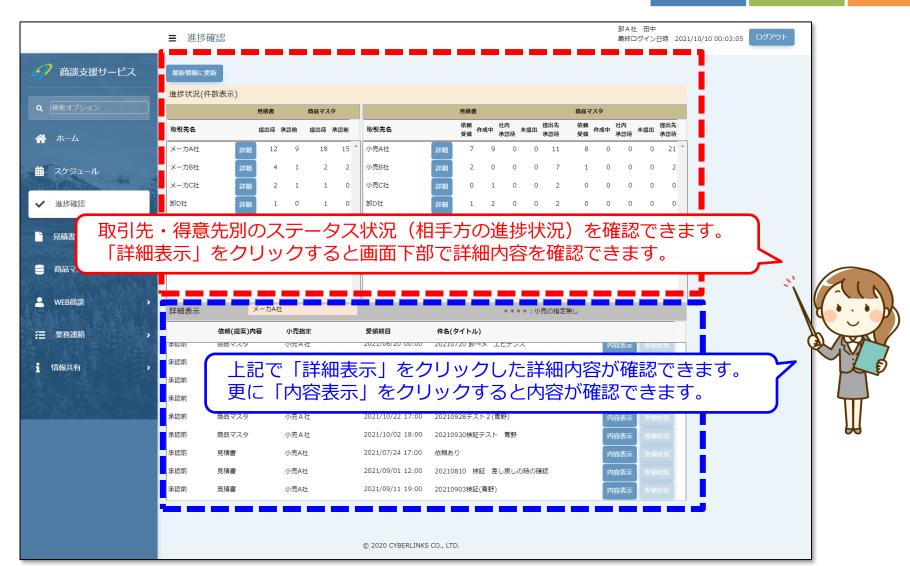


Appendix: N-Sikle画面イメージ(進捗確認画面)



利用者

メーカー 機能 卸売業 機能



Appendix: N-Sikle画面イメージ (見積依頼画面)



利用者



卸売業 機能



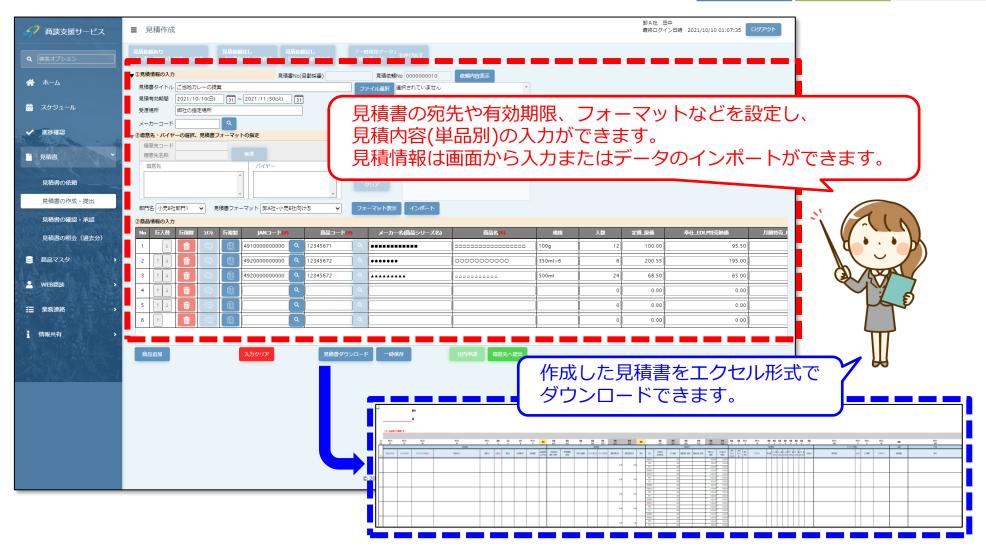
Appendix: N-Sikle画面イメージ(見積作成画面)



利用者



卸売業 機能



Appendix: N-Sikle画面イメージ (見積受領/確認画面)

-般社团法人 日本加工食品卸協会

利用者

メーカー 機能

卸売業機能

